

見出し	地震で心配なこと、困ること		対 策	誰 が			いつ			
				自分	地域	行政	今から	その時	被災後	
道路	ブロック塀のある道路は道が通れなくなる恐れがある為、地区の危険道路を地区民に伝える	地震でブロック塀や家屋が倒れて避難道が通れない	避難場所に行く途中、狭い通路の両脇のブロック塀が倒れる恐れがある	・自然の避難場所だけではダメ ・3F以上の民間建物の活用 ・貯水槽の弱さ対策 上記に対して「視察」						
	避難場所を知らないで困る			・防災員 ・防災倉庫 山の上でもポート ・コミュニケーション(地域)設備 ・バイオトイレ						
夜暗	夜の場合は電気(外燈)はなくなると思われるので避難場所は太陽光蓄電の外燈がほしい	地震の後には、約20~30分で津波が襲来してくるが、避難場所に行くための対策、夜間の時は特にどうするか(老人弱者はどうするか)	地震が発生すると第一に命を守るために(夜間で住家に居る時の夜間)、建物が被害を受けると、避難するために道路に出ることが出来なくなる	・戸締まり貴重 ・家が壊れた場合、後の防犯の事も対策を考える						
場所適正	土砂崩れと土石流の恐れがある地区がある	避難場所の裏山の貯水槽が壊れないか心配(東糺町神社)	避難路の照明は現行の停電の対応を太陽光蓄電等							
総合避難場所	避難場所糺鴨神社への老人等の避難路は危険で場所も狭いと思う	避難場所の階段の端に1.5m位のスロープを作ったが勾配がきつ過ぎる(鴨神社)	高野山(西町) ①避難の場合、山へ逃げる山道の件「絶対」に山道は使用できない ②道が狭い つえる別に道を作るべきである							
	一時避難後、総合避難所はどこだ	備蓄がない								
トイレ	避難場所にトイレがない	避難場所のトイレ設置 避難場所への電灯設置								
手助け	老人(手足の不自由な人)の看護の必要な人をまず救護する事の手はず	身体の不自由な住民を知らない	津波が発生したら逃げる事であるが ①身障者、病人等、自宅療養者についてどうするか ②自主防災会、隣近所の方とコミュニケーションを図っておく ③病人及び身障者を含めた検討会							
	近所に足の不自由な老人がいるので声をかけて安全確認をする(心配)									
対策本部と避難場所の連絡	市の連絡放送のマイクが聞こえづらいのでその対策を考える	指揮系統は?	地震、津波に対する避難のタイミング(防災無線は?)							
その他	避難場所にトイレがない水がない(井戸を掘ったら良い)	浸水すると土地が低いので救助等の対策はどんなにするか 冬の寒い時に水に濡れると着替え等が困ってくるので、身の回りの心配も困ってくるが(避難場所受け入れの対策は)	地震後、津波に備え壊れない建物に避難できないか(例)ハローワーク、商工会議所、大規模店舗屋上							
	訓練をあまりしていない	家が山の際で崩れるのが心配	糺鴨神社避難場所にしては狭くないか鳥居は大丈夫か?							

見出し	地震で心配なこと、困ること			対 策	離 が			い つ		
					自分	地域	行政	今から	その時	被災後
地震は怖い！ どうする？	近くに高地がないので心配	海岸で津波が心配 近くに大きな川がある	津波が心配	<ul style="list-style-type: none"> ・個々が自分を守る事を考え、最低限の備えとシミュレーションをくり返しおこなう ・大事なものだけを持ってすぐ逃げる ・家を出るとき必要なものを用意して手近に置く ・家を出る前に火の用心に十分注意する ・危険箇所・住宅を確認して対策を講じておく ・浸水しない高台への避難場所の設置 ・地区内の避難道路を広げる ・地区間を背後で結ぶ道路をつくる 						
	商店街は建物が密集して火災が怖い	土砂崩れにより孤立が心配	裏の山が崩れてくる							
	家が潰されて下敷きになる	土地が柔らかい所の家が傾く								
避難場所は安全？	避難場所での生活(特にトイレ)	逃げる時に道中が心配	割れたガラスによる怪我	<ul style="list-style-type: none"> ・避難場所を被害を最小限に抑える努力をし、避難路を整え、ルート作りをする ・各自、避難道、場所の確認(標識の設置) ・ガラスで怪我をしないため、フィルムをはる ・ソーラーとか、バッテリー式とかの電灯、方向灯とかを整備する ・避難ルートマップ(縦看板)を、要所に建てる ・防災マップを作成する 						
	避難場所がよくわからない	救出する道具等の所在がわからない	水に浸かりどこにもいけなくなる(丘の上に家がある)							
	夜間安全に避難出来るか不安	避難場所がガラス張りの体育館のため心配								
情報の共有は？ だれが知っているの？	正確な情報が入手できるかが心配	一人世帯の安否の確認が心配	家族が離れていた場合の連絡など	<ul style="list-style-type: none"> ・防災無線の機能を電気がなくても使用できるようにしておく ・あらゆる情報が取得できる窓口を作っておく ・組織の細分化とネットワーク作り? ・災害時の携帯サービスを使う メールを使う 						
	町内でいない人の確認ができるか？	防災組織があるかどうかわからない	離れた家族の安否・情報が得られない							
自主防災組織はどうやってつくる？	自主防災会の組織のありようをどのようにしたらよいか？	実際の消火活動を誰がやるのか決まっていない	防災計画を具体的に立てるべきかどうか迷っている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内で自助、共助を基に、小ブロックに別け、一人の落ちこぼれもない体制作り ・行政からの予算的支援の充実 ・人の気持ちが大切なので、町内の意識を高め、行政の力を借りる ・町内のつながりを大切にする 						
	自主防災会の理想的な規約はどのようなものなのか？	自主防災組織がない	どの程度の責任を役員が持たなければならないのか不安							
	自主防災会は最低限、何をしなければならぬのか不安	自主防災会の予算がない	自主防災会の備品のそろえ方をどのようにするか							
	地区でもっと関心を持ってもらう今は関心が少ない									
地震の後は？ 普通に暮らせる？	電気、ガス、水道が使えない時の生活	避難対策の早期実現(道、場所)	事故処置の対応(医療、食料問題)	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺地域も被害があるので、今までより大変であることを想定し、個々の備えが必要 ・災害が起きてから何日か分の生活用品を各家庭で用意しておく ・復旧に備えた個人支援制度の確立 						
お年寄りはどうするの？ ケガ人は誰が運ぶの？	けが人等への対策が心配	高齢者が多くなったので自分で出来ない	津波が心配である(老人対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘリポート基地を多く設置する ・防災組織作りの中で担当を決めていく 町民の取り組みが大切 						
現状の把握	地震後の家屋、その他の保険制度の見直しが一番大事なことだと思っている	防災無線(スピーカー)からの音が聞きとれない		<ul style="list-style-type: none"> ・被災を予想されていない他県の自治体との支援体制の確立 						